

$$\begin{aligned}
 & 100 \times 3 + 150 \times 1 + 200 \times 2 + 250 \times 3 + 300 \times 2 \\
 & = 300 + 150 + 400 + 750 + 600 \\
 & = 2200 \text{ (円) になります。}
 \end{aligned}$$

ここでそれぞれの金額の皿の枚数に、文字を使って考えてみましょう。

100円皿を a 枚、150円皿を b 枚、200円皿を c 枚、250円皿を d 枚、300円皿を e 枚とし、それぞれの金額をかけていきます。

合計金額は、 $100 \times a + 150 \times b + 200 \times c + 250 \times d + 300 \times e$ となります。

この文字を使った式を **文字式** と言います。

文字式のルール

ルール① → “×”を省くことができる

上記の文字式、 $100 \times a + 150 \times b + 200 \times c + 250 \times d + 300 \times e$ をスッキリさせるために“×”を省いて表します。

つまり、 $100a + 150b + 200c + 250d + 300e$ です。

ルール② → 数字は前、文字は後ろ

たとえば、 $a \times 3 = a3$ は、 $3a$ と書きます。そうすると $b1$ は、 $1b$ となりますが…、1のときは1を書かなくてもよいという約束がありますので、

$b1 = 1b = b$ となります。

$100a + 150b + 200c + 250d + 300e$ は、「数字は前、文字は後ろ」のルール通りになっていますね。

ルール③ → “÷”は分数で表す

まず数字で確認します。 $8 \div 4 = 2$ の式を分数で表してみましょう。

$$8 \div 4 = 8 \times \frac{1}{4} = \frac{8}{4} = 2 \text{ となります。}$$

これを文字式にすると、 $a \div b = a \times \frac{1}{b} = \frac{a}{b}$ となります。

さらに、 $a \times 3 \div b$ ならば、

$$\begin{aligned} & \frac{a \times 3}{\div b} \\ &= \frac{3a}{\div b} \\ &= 3a \times \frac{1}{b} \\ &= \frac{3a}{b} \quad \text{となります。} \end{aligned}$$

ルール④ → アルファベット順に書く

たとえば、 $c + a \times 3 + b \times 2$ は、

$$\begin{aligned} & c + a \times 3 + b \times 2 \\ &= c + a3 + b2 && \left. \begin{array}{l} \\ \\ \end{array} \right\} \text{ルール①} \\ &= c + 3a + 2b && \left. \begin{array}{l} \\ \\ \end{array} \right\} \text{ルール②} \\ &= 3a + 2b + c && \left. \begin{array}{l} \\ \\ \end{array} \right\} \text{ルール④} \end{aligned}$$